

2020年11月30日
 空港施設株式会社

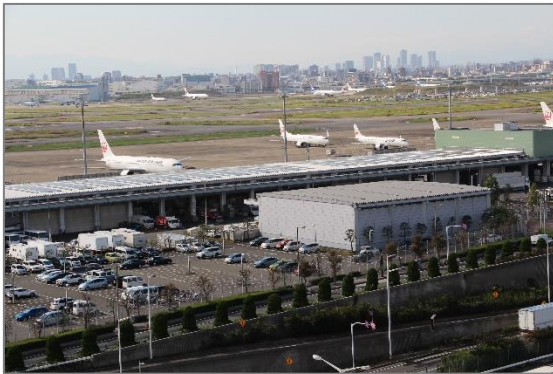
羽田空港国内貨物ターミナル地区 太陽光発電設備の導入 ～国内空港への投資で初めてのグリーンボンド発行～

当社は、国内航空貨物ターミナル地区においてメガワット級の自家消費型太陽光発電設備（以下、太陽光発電設備）を導入いたします。

また2020年11月30日付にて、第3回無担保社債（私募債、グリーンボンド）を発行しました。この資金は当該太陽光発電設備の設置資金に充当されます。

1. 太陽光発電システム導入経緯

当社は東京国際空港（羽田空港）において、航空貨物ターミナル施設の賃貸管理を行っております。羽田空港は日本各地を空路で結ぶ物流の一大拠点であり、24時間運用されていることから、昼夜を問わず様々な設備（大型冷蔵庫、自動仕分け装置等）が稼働しております。そこで当社は、貨物施設の屋根を活用して太陽光発電を行うことで、地区内にクリーンなエネルギーの導入を図ることと致しました。



【W-1 棟】



【E-4 棟】

2. 設置設備概要

設置施設	東京国際空港航空貨物ターミナル施設 W-1 棟、E-4 棟 （各建屋で発電した電気を地区内で利用）
用途	自家消費型太陽光発電設備
太陽光パネル敷設面積	6,396 m ²
年間発電量	約 1,195 千 kwh（約 270 世帯分）
CO2 削減量※	578t/年
運用開始日	西側貨物地区 10月31日 東側貨物地区 12月初旬（予定）

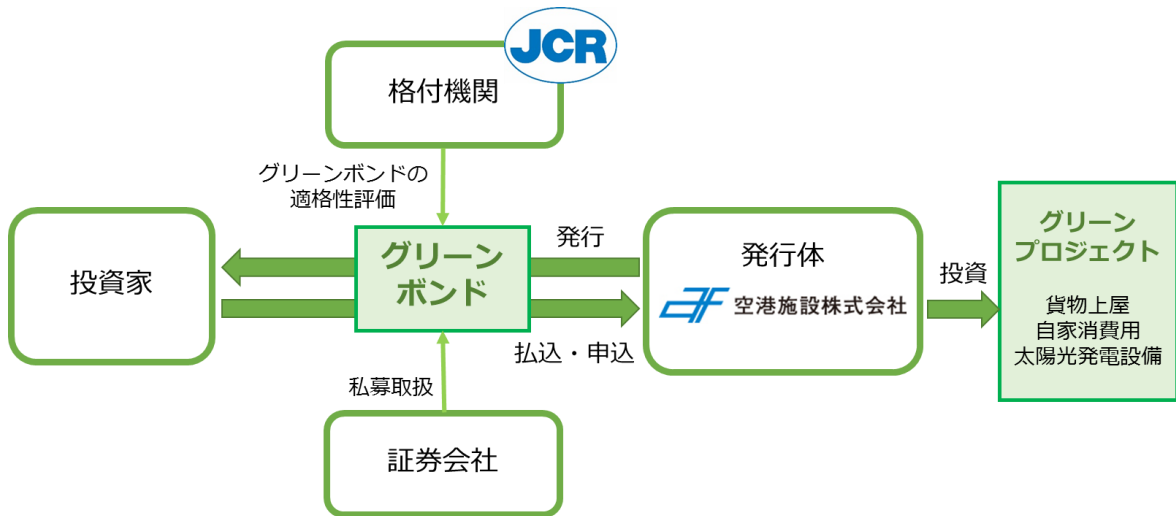
※ CO2 削減量=0.489〔CO2/kWh〕換算（東京都環境確保条例による定期報告書に基づく換算係数）

3. 社債発行について

太陽光発電設備設置資金の一部を調達する際に、国内空港への投資として初の試みとなるグリーンボンドの制度を活用した私募債を発行致しました。これは資金調達の多様化のみならず、当社が掲げている「持続可能な社会の実現」を意識した取り組みの一環です。

4. グリーンボンドについて

グリーンボンドとは、企業等がグリーンプロジェクト（環境問題の解決に貢献する事業）に要する資金を調達するために発行する債券です。本件に関しては株式会社日本格付研究所よりグリーンボンド最高評価である Green1 を付与されました。



5. 当社の太陽光発電事業に対する取り組み

当社は土地の有効活用策として太陽光発電を開始し、その後空港内施設への設置や、東京 23 区内最大規模の設備を設置するなど、様々な形での太陽光発電事業に取り組んでおります。当社は今後も持続可能な社会の実現に向けて、積極的な再生可能エネルギーの活用に取り組んで参ります。

竣工	施設名称	設置場所	年間発電量※
2013 年	本三里塚ソーラー発電所	千葉県成田市	約 800 千 kWh(230 世帯分)
2014 年	鹿児島空港 第一・第二格納庫及び倉庫	鹿児島空港	約 300 千 kWh(90 世帯分)
2016 年	岐阜瑞浪ソーラー発電所	岐阜県瑞浪市	約 1,600 千 kWh(430 世帯分)
2018 年	TRC 物流ビル B 棟屋根 ソーラー発電所	大田区平和島	約 2,500 千 kWh(620 世帯分)
2020 年 New	羽田空港国内貨物ターミナル	羽田空港	約 1,195 千 kWh(270 世帯分)

※世帯当たり年間電気消費量 4,397kwh 換算（環境省：家庭部門の CO2 排出実態統計調査（家庭 CO2 統計）のご紹介）



おかげさまで50周年

6. 本件に関するお問い合わせ先

空港施設株式会社広報室

電話：03-3747-0251（9：00～17：00） ※土日祝日を除く

以上